



# 静岡市立賤機中小学校 出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年5月11日(木)



「子どもたちは安心して楽しく授業を受けることが出来たと感じました。」

静岡市立賤機中小学校の6年生12人が、社会科の授業「大昔の人々は、どのような暮らしをしていたのだろう」で、当時の道具に触れることを通して、大昔の人々の暮らしの様子について考えることが出来ることを目的に、発掘調査と周辺遺跡の話、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの4つを体験しました。

## 発掘調査と 周辺遺跡の話



発掘調査や保存処理などの仕方を簡単に説明した後、学校周辺の遺跡として、賤機山古墳や上土遺跡の話を画像を見ながら興味深く聞いていました。

「発掘調査の説明を聞いて、さらに歴史に興味をもちました。」



## 土器の分類体験



縄文土器や弥生土器、須恵器の3つの土器片を分類しました。完形土器を見ながら、似ているところを探して、班で協力しながら分類しました。



「すごく難しかったけど、友だちと一緒に考えるのが楽しかったです。」

## 石器の試し切り体験



鉄器が登場する前、様々な石を加工して、用途に応じた石器を作り出すなど、石が生活に欠かせないものだったことを知った後、黒曜石で野菜や紙などを切ってみました。

「石を使ってこんなに切れるなんてビックリしました。また、石で切れることに気づいた昔の人は、すごいと思いました。」



## 火起こし体験



火起こしの歴史を簡単に話した後、舞きり法での火起こし方法を説明しました。やり方が分かったら、班で協力して弾み車を回し始めました。時間がかかって大変そうでしたが、火が起きたときはうれしそうでした。

「時間がかかって大変だったけど、成功させられてうれしかったです。」

「昔の人は、こんなに時間をかけていて、すごいと思いました。」



## 先生方の感想

「今回は、歴史単元を始める前に来ていただきました。多くの体験があったことで、ねらいであった「歴史学習への関心を高めること」を達成できたと思います。どの活動も本物に触れさせていただいたことで、子どもたちは、昔の人々の暮らしについて具体的に考えることが出来ていました。また、2時間の中で子どもたちの学びが深まるよう、適切な時間かつ魅力的な活動をしていただいたこと、大変有難かったです。小学6年生という発達段階に配慮した言葉選びや対応をしていただいたことで、子どもたちは安心して楽しく授業を受けることが出来たと感じました。」